

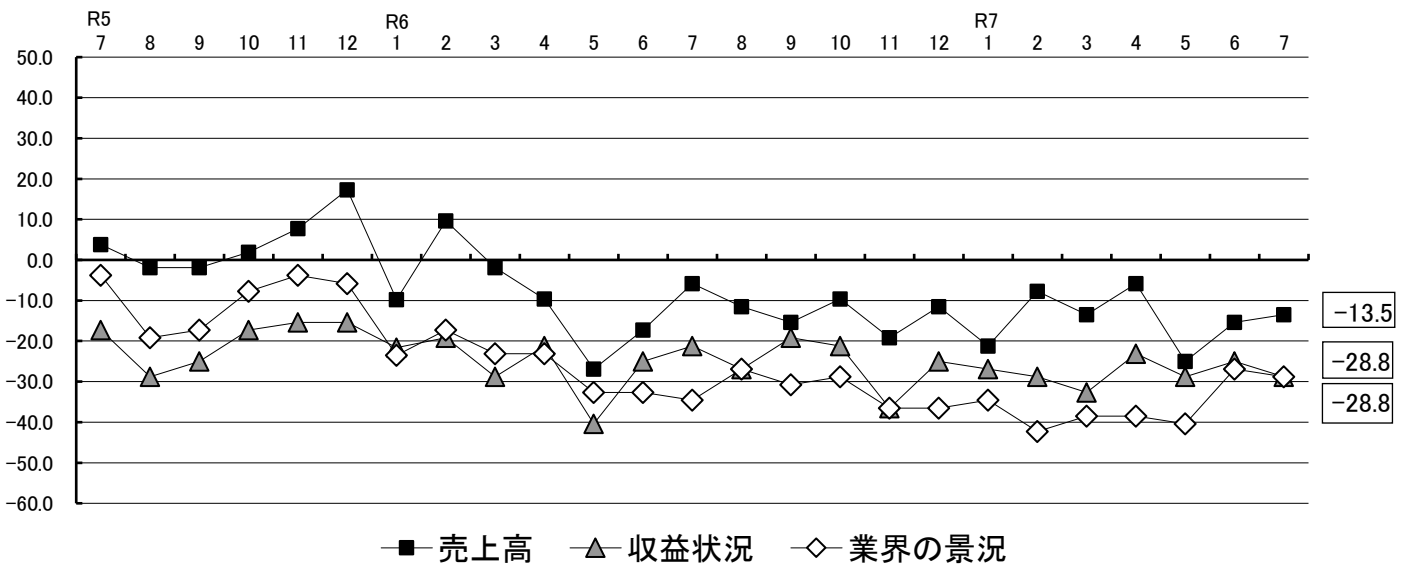
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和7年7月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 7月の前年同月比DI値は、前月と比べて、主要3指標では「売上高」で上昇が見られた。その一方で、「収益状況」「業界の景況」では低下となった。その他の指標では、「販売価格」「取引条件」「雇用人数」の3指標が上昇し、「在庫数量」「操業度」の2指標が低下した。「資金繰り」においては前月と同様であった。
- 業種によっては価格転嫁が進んでいるものの、最低賃金の上昇を見据えた人件費の増加や、米国関税の影響など、先行きを不安視する声が高まっている。
- 連日の猛暑による影響で、多くの業者に消費の停滞、客足の減少及び生産効率の低下などが起きている。熱中症対策の義務化などもあり、異常気象による今後の経済への影響が懸念されている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-13.5	1.9	-12.8	-1.0
収益状況	-28.8	-3.8	-25.6	0.5
業界の景況	-28.8	-1.9	-27.4	-0.1

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より1.9ポイント上昇し、-13.5ポイントとなった。全国においては、-1.0ポイント低下し、-12.8ポイントとなった。

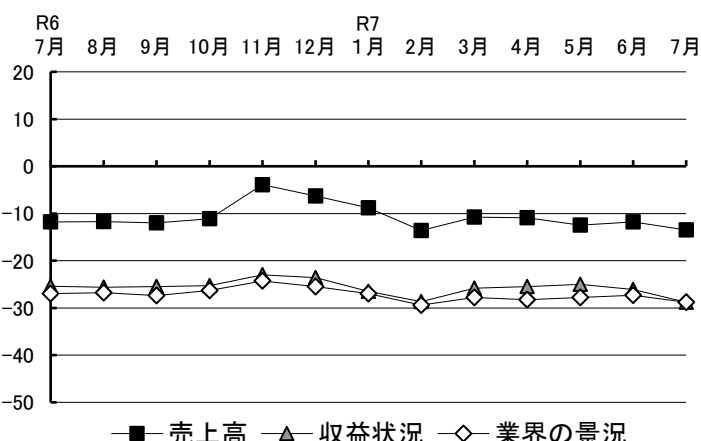
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より-3.8ポイント低下し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.5ポイント上昇し、-25.6ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より-1.9ポイント低下し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.1ポイント低下し、-27.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

7月の前年同月比 DI 値は図表2のとおり前月と比べ4指標が上昇し、4指標が低下した。主要3指標では「売上高」は1.9ポイント上昇、「収益状況」は-3.8ポイント低下、「業界の景況」は-1.9ポイント低下となった。

製造業のうち「食料品」では、気温の上昇により客足の減少や農作物への影響があり、なかでも、もち米等の原材料の確保が難しくなっている。加えて、人手不足が深刻な状況であり、将来的な人材確保及び最低賃金の上昇に不安を抱えている企業が多くみられる。「窯業・土石製品」では、原材料の仕入価格が引き続き上昇しており、仕入コストの増加に対応するため、製品価格の引き上げを検討している。

非製造業でも連日の猛暑の影響が目立ってきている。「食肉小売業」では、家畜の発育遅れにより出荷頭数が減少し、豚の価格が史上最高値となったほか、「各種商品小売業」では、夏物衣料のニーズがファッション性より機能性重視に移行している。「理容業」では、涼しさを意識したクールビズヘアを推奨し、今後の集客が期待されている。また、「旅館・ホテル業」では、米国関税問題や物価高などが消費者心理に影響し、宴会需要が減少傾向にある。

当月のDI 値は大きな変化は見られず、概ね横ばいで推移した。各業種で価格転嫁に取り組んでいるものの、人件費の上昇により、収益の圧迫や人手不足に悩まされている状況である。また、連日の猛暑による客足の減少及び消費活動の停滞が見られ、加えて、熱中症対策の義務化もあり企業側の負担も増加するなど、異常気象による今後の経済への影響が懸念されている。

図表1 【業種別・指標別DI 値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-25.0	0.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	25.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
木材・木製品	-75.0	-25.0	-25.0	-25.0	-75.0	0.0	-50.0	-25.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0
窯業・土石	-50.0	50.0	75.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	-25.0	-50.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	-50.0
製造業	-24.0	4.0	24.0	-16.0	-28.0	-8.0	-20.0	-8.0	-28.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3	0.0	-33.3	-33.3
小売業	14.3	-28.6	57.1	-14.3	-14.3	0.0		28.6	-57.1
サービス業	-66.7		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		0.0	-33.3
建設業	0.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	-20.0
運輸業	50.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		0.0	0.0
その他	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-3.7	-20.0	33.3	-18.5	-29.6	-18.5		-3.7	-29.6
全体	-13.5	-2.9	28.8	-17.3	-28.8	-13.5	-20.0	-5.8	-28.8

図表2 【指標別DI 値の推移】

	6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
売上高	-5.8	-11.5	-15.4	-9.6	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	1.9
在庫数量	-5.7	-2.9	0.0	-2.9	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-2.9
販売価格	25.0	21.2	26.9	17.3	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	3.8
取引条件	-9.6	-5.8	-13.5	-9.6	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	5.8
収益状況	-21.2	-26.9	-19.2	-21.2	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-3.8
資金繰り	-11.5	-17.3	-19.2	-21.2	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	0.0
設備操業度	-8.0	-4.0	-16.0	-8.0	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-8.0
雇用人員	-5.8	-3.8	-5.8	-7.7	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	1.9
業界の景況	-34.6	-26.9	-30.8	-28.8	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-1.9

特記事項

情報連絡員報告（令和7年7月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	このところの猛暑のため菓子業界は厳しい状況である。又、気温の上昇等による農作物への影響が懸念され、もち米等の原材料の確保が難しくなっている。
	めん類製造業	7月は観測史上最高の暑さで、熱中症警報も発表された。食品スーパーの日配品は好調だったが、お中元関係は参議院議員選挙の影響で減少した。得意先の飲食店では、気温が35℃を超えると客足が遠のくとの情報があり、暑さが売れ行きに影響した。また、お米の高騰騒ぎを受け、お米の取り扱いを中止した仲間もあり、不採算商材を見直した結果、在庫が減り、手間が省け、利益が好転した。一番の問題点は、人手不足である。最低賃金が毎年上昇する中、地域によってはサービス業関係で時給2,000円の募集をしても応募者がいないという声もある。現状は既存の社員で何とか業務を回しているが、将来的な人材採用に不安を抱えている企業が多い。現在もコストアップの状況が続いており、製品価格を5～10%値上げた仲間もいた。この時代背景の中、得意先からの了解も得やすかったという。一方で、県内でも地域によっては得意先や消費者の動きに変化が少なくところもあり、価格改定の必要性を感じていない仲間もいた。
繊維工業	縫製業	売上及び収益は、前年同月とほぼ同額で乗り切った。生産商品をかき集めて前年同額を維持したものであり、業界の市況は厳しい状況が続いている。厳しさが増すと見込んでいる。先行きが不透明である。
木材・木製品	一般製材業	住宅着工数の減少により建設用木材の動きが鈍い状態である。木材非住宅物件に着目して当該物件の受注を目指したい。
	家具・建具製造業	金利上昇によって住宅ローンの利用が難しくなり、その影響で住宅の販売数が激減しているという意見がある。
	木材・木製品製造業	住宅業界は相変わらず需要が乏しい。新築リフォームも件数が伸びていない。非住宅部門の見積もりが出てきており、S造、RC造からの再見積もりもある模様。非住宅木造向けの補助制度があった為、営業はしやすかった。梱包向けは堅調に推移しており売上は対前年同月比増加となっている。梱包向け資材問屋の情報によれば会社間で多少明暗が出てきている模様である。
印刷	印刷業	原材料などの仕入価格の上昇については、一定程度価格転嫁が進んでいるものの、人件費の上昇分にはまだ追い付いていない。今後は季節的に需要が減少する時期に入るため競争により価格が抑えられている。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは昨年と同水準を維持したものの、建材関係及び肥料関係は昨年比で減少し、全体としても昨年から減少した。
	窯業・土石製品製造業	第1四半期（4月～6月）の出荷量は、3,352,547トンであり、昨年同時期比で0.9%減少している。
	陶磁器・同関連製品製造業	業界全体の操業はやや低下している。原料の仕入価格は上昇が続いており、購買品の値上げを検討している。猛暑の影響で観光客は大幅に減少しており、それに伴い売上も減少している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品は少し増産になった。関税前の駆け込みか、お盆前の先行なのかは不明である。8月以降の関税の影響が心配である。賞与の時期だが、現状は厳しく、とても増額できない。自動車向け金型は一部新規を受注できたが、9月以降の話題が全くない。熱中症対策で冷風機などを買い増したが、工場内は熱風化しており、あまり喜ばれていない。7月の連日の猛暑日は体力が消耗し、生産にも大きな影響が出た。雷による一瞬の停電で機械が停止し、製品不良となった。鋼材は月初に受注が増加してスタートしたが、中旬から勢いが続かず、横ばいとなった。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格上昇、人材不足及び人件費等の諸経費の増加分である。
一般機器	一般機械器具製造業	前月同様、全般的に不変とする組合員企業が多かった。売上高に関しては、増加と不変が拮抗しており、減少と回答した組合員もあり、全体としてはバラつきが見られた。参議院選挙後の経済政策については不透明であり、今後を不安視する組合員が多かった。相互関税の影響については、「やや影響がある」「わからない」との声が多い。組合員が抱える大きな課題は、原材料の高騰や人材不足及び定着に集中しており、最低賃金の引き上げも今後の経営に大きな影響を及ぼすと見られる。
	一般機械器具製造業	受注量は前年比で大きく伸びた。結果として、資金繰りは好転した。現在の状況は順調に進んでいる。トランプ関税の詳細が明確ではないため、今後どうなるかは不明である。
卸売業	各種商品卸売業	すべての項目で不変とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ微増とするも不変とする企業が多い。トランプ関税の組合員への影響は今のところ出ていない。

	各種商品卸売業	業種や取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は高止まりしており、物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保は困難であり、募集をかけても集まりにくい状況が続いている。賃金の引き上げにも対応しているが、原資の確保に加えて労働時間の問題も検討する必要がある、課題は多い。
小売業	食肉小売業	毎年7月は暑さの影響で牛・豚の発育が遅れ、出荷頭数が減少するため、豚の価格は史上最高値となった。海外産の鶏は疫病の影響で処理数が少なく価格が上昇しており、その他の輸入豚肉も値上りしていることから、利益を圧迫している。
	その他の小売業	LPガス販売事業においては、気温の上昇が例年よりも早く、消費量は全体的に少ない傾向にある。ただし、価格の上昇もあるため、売上高だけを見れば前年比で上昇している。しかし、それ以上に卸値が上昇しており、収益は減少傾向にある。
	各種商品小売業	猛暑により客足の減少が懸念されている。7月期の景況は全体的に落ち込み、個人消費も低調である。気温の上昇が消費の停滞を引き起こしたと考えられる。特に買い回り品では高齢者の買い物が減少している。加えて、暑さが厳しすぎるため人手が少なく、飲食店も苦戦している。
	各種商品小売業	もはや例年のこととなっているが、猛暑の影響で夏物衣料はセールでも動かなくなっている。ファッション性よりも機能性を重視した商品の支持が一層強まっている。
サービス業	理容業	連日の猛暑により、全理連でも毎年公開しているヘアスタイルの中から、涼しさを意識した「クールビズヘア」のポスターを店頭に掲示している。そのヘアスタイルを求める顧客も増加しており、各店舗でも集客につながる事が期待される。
	旅館・ホテル	7月の宿泊は、前月同様に比較的高稼働で推移した。宴会については、アメリカとの関税問題への懸念と物価高が、ホテルでの宴会に悪影響を与えている。飲食店では、物価高と関税問題による利用控えの影響が表れていると感じている。原材料の高騰による影響が非常に大きい。
	給食センター	備蓄米の流通が行き渡り、ようやく価格が高止まりし始めたと思われる。今後は、最低賃金の上昇が懸念される。
建設業	職別工事業	インバウンド需要の高まりによる宿泊施設や娯楽施設、さらに高齢化に伴う介護施設などの需要増加により、工事受注は顕著に増加傾向にあるものの、材料費などの値上りにより収益面は横ばいの状況にある。
運輸業	貨物自動車運送業	当組合内では、アルミコイルの保管量が減少している。また、自動車エンジン部品の梱包が減少し、EV関連部品の梱包・出荷が主流になりつつある。地区内の事業者では、物価高に対して価格転嫁が思うように進まず、人手不足を背景とした処遇改善目的の賃上げや、燃料費・車両整備費の上昇に対して、運賃相場が追いついていない。8月の連休を前に、一時的ではあるが輸送量は増加した。一方で、建設関係の資材や物資を運ぶ事業者は依然として低迷している。
	貨物軽自動車運送業	天候の影響もあり、大手エアコンメーカーからの依頼が頻繁にあった。夏野菜の配送も非常に多く舞い込んだ。大手飲料メーカーからも、スーパーやドラッグストアへの緊急補充の依頼が多く寄せられた。昔から参議院選挙の年は7月の受注が減るといわれてきたが、今年は暑さが勝り、忙しい1ヶ月となった。
	一般旅客自動車運送業	月半ばの連休や毎週末の天候が良かったこともあり、特に土曜日の売上が好調だった（個人的には夕方から深夜の営業）。昨年暮れに運用を開始した配車アプリ「TAXI GO」も好調で、20代～60代の幅広い年齢層に支持されている。組合運営については、75歳の定年を迎えた、または間もなく迎える組合員が4～5人おり、賦課金の収入などが減少する見込みである。そのため、何かしらの対策を講じなければいけないのが課題である。
その他の非製造業	大谷石採取業	大谷石業界は売上がアップしている。観光客は、大谷資料館だけで、地区内を散策する人が極端に少ない。暑さの影響と思われる。